

高まる地域ブランドへの評価

オリエンタルコンサルタンツが神奈川県開成町で展開する地域創生事業にまた1つ新たな勲章が加わった。同社子会社の瀬戸酒造店が英国で開かれた世界最大のワインコンテスト、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）2021のSAKE部門で最高賞のゴールド賞を含む9つのメダルを獲得。2018年3月の自家醸造再開から3年連続での受賞となり、地域資源である「おいしい水」を生かした地域ブランドへの世界の評価は高まる一方だ。

瀬戸酒造店は、幕末の慶応元年（1865年）に創業した造り酒屋。1980年に自家醸造を中断したが、オリエンタルコンサルタンツの支援を得て酒蔵を再建し、幕末から続く同店の代表銘柄を復刻した「酒田錦」のほか、「セトイチ」「あしがり郷」の3ブランドを展開している。

オリコンサル子会社の日本酒

世界最大のコンテストで最高賞含め9メダル獲得

これまでIWC以外に、フランスのKuraMasterでも2年連続で受賞。酒文化研究所が発表している世界酒蔵ランキングでは20年に11位となった。今回のIWCでは全世界から出品された日本酒1,499銘柄の中から「セトイチ手の鳴る方へ」がゴールドメダルに輝いたほか、3銘柄にシルバーメダル、5銘柄にブロンズメダルが贈られており、21年はさらに上位のランキングが期待されている。

オリエンタルコンサルタンツは、指定管理者として運営する隣接の古民家「あしがり郷瀬戸屋敷」を含め、豊かな地域資源を生かしたグリーンインフラプロジェクトを今後さらに充実させながら地域活性化に取り組んでいく考えだ。